

研修記録

引率（下関市立東部中学校）岡本幸治

【1】 1日目 7月31日（水）



6月下旬の結団式から4回の事前研修会と副市長への挨拶を終え、出発の日を迎えました。出発式は早朝7時から、下関市関係者、国際ソロブチミスト東下関、団員所属校の校長先生、団員家族が見守る中、阿部団長、谷口団員が代表して派遣への期待と不安を述べました。

出発式が終了し、いざ出発となると、保護者のいない初めての海外研修への不安が増してきたようで、不安な面持ちで新幹線

に乗り込み下関を旅立ちました。

新下関駅から新幹線と地下鉄を乗り継ぎ、福岡空港までの移動は平日の通勤通学時間帯のため混雑していて、持ち慣れないスーツケースに手を焼きながらも前の人に遅れをとらないようにと列について行っていました。福岡空港に到着した時には、団員たちは「もう疲れた」とため息をついていました。



国際線の飛行機に初めて乗る団員にとっては、搭乗前の手荷物検査と出入国審査は非常に緊張することで、列に並んで順番待ちをしている間、手荷物検査に引っかかるものはないだろうか、出国審査で差し出すものは何だろうかお互いに確認し合っていました。手荷物検査と出国審査はともに無事に通過しましたが、韓国インチョン空港への飛行機は搭乗予定の飛行機が遅れたために出発が1時間遅れました。インチョン空港に到着後は、次に搭乗する飛行機までの時間に余裕があるので、昼食をとったり買い物を楽しんだり、無料のシャワー室を利用して汗を流す団員もいました。また、空港内の広場でプレゼンテーションの最終打ち合わせをしました。

アメリカでの入国審査は事前に準備しているとはいえ緊張するもので、列に並んで待っている間、「何を聞かれるだろうか」、「滞在先はどこと答えたらいいのだろうか」「英語で何と言ったらいいのか」と互いに確かめ合っていました。去年は10分以上も質問攻めにあった団員がいたそうですが、今年は難なく入国審査を終えました。次は税関を通過しますが、税関職員に日本からの団体と告げると税関申告書を手渡すこともなく素通りできました。



サンフランシスコ空港の建物を出ると、日本の夏の蒸し暑さとは違い、乾燥して少し涼しさを感じ、日本との気候の違いに驚いていました。日本との時差はマイナス16時間のため、日本時間では7月31日の午前4時でした。時差ボケで体のだるさを感じながら貸し切りバスに乗り込み、領事館への訪問予定時刻が近づいていたので、昼食をとらずに向かいました。領事館へ向かう道路は

渋滞していたので訪問時刻に間に合うかどうかやきもきしましたが、無事に遅れることなく到着しました。

「在サンフランシスコ総領事館」はサンフランシスコ市の中心市街地にあり、高層ビル群の中に位置していました。団員を代表して安田さんが挨拶をしました。青野副領事からはカリフォルニア州の特徴と日本とカリフォルニア州の交流の歴史、領事館の業務内容の説明を受けました。



その後、遅い昼食をサンフランシスコ市内の観光地ピア39（39号埠頭）で取りました。予約されていたサラダとクラムチャウダーが出されましたが、どちらも量が多くて食べきれず、早速、食事量の多さにふれて驚いていました。ピア39周辺はサンフランシスコ観光の中心地で世界中からの観光客であふれていました。団員たちは周りをきょろきょろと見渡していて、ゆっくりと観光したいところでしたが、先を急ぎました。

現地時間の18時にピッツバーグ市役所に到着。サンフランシスコでは肌寒さを感じましたが、ピッツバーグは内陸に位置するため、気温は30度を超えて肌をじりじりと焼くような暑さでした。ピッツバーグ市役所に到着すると、ピッツバーグ市の担当者とホストファミリーが出迎えていました。この時はすでに日本を出発してから27時間が経過していましたが、団員たちは元気にあいさつを交わし、翌日の集合時間と場所などの打ち合わせを済ませた後、ホストファミリーに連れられて各家庭に向かいました。



【2】 2日目 8月1日（木）

米国2日目はピッツバーグ市役所からのスタートです。初日のホームステイを終えた団員たちは元気に合流。市議会議場に招かれギャレン総務部長から歓迎の言葉を頂き、団長の挨拶後、来場者の前で下関のプレゼンテーションを行いました。会場にはピッツバーグ市の関係者とホストファミリーなど20人ほどがいました。出発前から団員みんなで考えて、原稿を英語で作成し、何度もリハーサルをしていたので



自信をもって発表できました。来場者が参加できるように、プレゼンテーションに関するクイズを織り交ぜながら進めることで、和やかな雰囲気での発表ができました。発表後は、団員たちは議長席に座らせていただき、ガベル(採択を知らせる木槌)をたたき経験をさせていただきました。

市議会議場を出て、市役所に併設されている「ピッツバーグ市警察署」の見学をしました。町を監視するモニター室、取調室、拘置所などを案内していただき、普段見ることのできない場所を見学することができました。また、パトカーと白バイにも乗車させていただきました。



ピッツバーグ市役所を出て、最初に向かったのは「ピッツバーグ高校」(Pittsburg High School)でした。約30人のボランティア高校生たちが私たちを出迎えてくれました。広大な敷地に充実した施設が配置されていました。学校のイメージキャラクターはPirate(海賊)で、校舎の壁に海賊の絵が描かれ、校庭の中心には銅像がありました。体育館ではバレーボールクラブが練習



をしていて、突然の訪問にも温かく受け入れていただきました。陸上競技場ではアメリカンフットボールのチアリーダーとマーチングバンドが練習をしていました。私たち訪問団のために練習を中断して、特別にパフォーマンスを見せてくれました。



昼食をとった後、1999年11月に姉妹都市締結の記念として設置された「ふくの像」を見に行きました。ピッツバーグ市の北部、内海に面したウォーターフロントにある公園の一角に置かれています。今年で20回目となる派遣研修団も例年と同じく「ふくの像」の前で記念撮影をしました。

次に、「マーティン・ルーサーキング・ジュニア・ジュニア・ハイ・スクール」(Martin Luther King Jr. Junior High School) を訪問しました。ピッツバーグ市にある3中学校の一つです。夏休み中でしたが、20人ほどの中学生が出迎えてくれました。図書室に移動して、アメリカの学生による学校の紹介を聞いた後、下関のプレゼンテーションを行いました。2回目のプレゼンテーションでしたから、1回目よりもうまく進めることができました。その後、日本の文化紹介として折り紙をアメリカの学生と作りました。折り方の図を見せながら、団員たちが一人一人のそばについて折り鶴を作りました。

次に、「マーティン・ルーサーキング・ジュニア・ジュニア・ハイ・スクール」(Martin



次に、ピッツバーグ市の歴史的景観地区にある「カリフォルニア劇場」(California Theatre) を見学しました。この劇場は、1920年に開場したそうで今年で創設99年になります。この日のために特別にパイプオルガンが据え付けられ、演奏を聴くことができました。このオルガンはボタンを操作して鍵盤をたたくことで客席上部に備え付けている打楽器や管楽器を操作することができるそうで、一人の演奏者が同時に複数の楽器を演奏することができ、まるでオーケストラが演奏しているようでした。



【3】 3日目 8月2日（金）

この日はカリフォルニア州の州都サクラメント市へのバス旅行です。団員たちがピッツバーグ市役所に集合すると、同行するボランティアの中学生たち15人が集まっていました。簡単な自己紹介の後、スクールバスに乗り込み約90分かけてサクラメント市にある州議会議事堂に向かいました。議会は2院制で議会場の壁や座席がそれぞれピンク色と緑色に統一されていたのが印象的でした。廊下の壁には歴代州知事の肖像画が掛けられていて、その中に有名な映画俳優のアーノルド・シュワルツェネッガー氏の肖像画を見て親しみを感じました。最後に、州知事室前にあるグリズリー・ベアと記念撮影をしました。グリズリー・ベアはロッキー山脈に生息する動物で、州旗にもデザインされているカリフォルニア州を象徴する動物です。



続いて、サクラメント市内のオールドタウン（旧市街地）に移動しました。アメリカ西部開拓時代の古い町並みが残っている観光地でした。まるで、西部劇の映画に紛れ込んだような錯覚を覚えました。ここで、昼食にピザを食べました。その後、1時間ほど団員とボランティアの学生がペアになって観光と買い物をして過ごしました。土産物店で商品を手に取り、英語で“What is this?” “Do you like this candy?”などと英語で積極的に会話している団員の姿も見られました。団員たちはアメリカ滞在3日目になり、英語を使って積極的にコミュニケーションをとろうとする気持ちが高まっていると感じました。



【4】 4日目 8月3日（土）

この日は終日ホストファミリーと過ごしました。それぞれの家庭で楽しく1日を過ごしたようです。サンフランシスコに出かけてゴールデンゲートブリッジを見たり、フィッシャーマンズワーフで食事や買い物を楽しんだり、メジャーリーグの野球を観戦したりとそれぞれ楽しく過ごしたそうです。

【5】 5日目 8月4日（日）

この日も夕方までホストファミリーと過ごしました。午後5時からの「プール・パーティー」に団員とホストファミリーが集合しました。アメリカでは自宅にプールがある家庭は珍しくなく、団員たちはプールで浮き輪に乗ったりボール遊びをしたりして思い思いに楽しんでいました。BBQ と軽食をとった後、団員たちは浴衣に着替えて日本の夏の雰囲気を出して、お世話になったホストファミリー



に感謝の気持ちを込めたビンゴ大会を開きました。ビンゴ大会の進行は団員がすべて英語で行い、景品は日本から持参したおりがみ・けん玉・弁当箱など日本ならではのものを用意しました。ホストファミリーの皆さんは団員の進行に拍手や歓声で盛り上げてくれて、楽しい時間を過ごすことができました。最後に、日本の文化紹介として、団員二人が空手の演武を披露しました。迫力ある演武に一同から大きな拍手が送られました。



【6】 6日目 8月5日（月）

ピッツバーグ市に滞在中の一週間は天気に恵まれ、連日快晴の日々でした。ホームステイを終えた団員たちは集合場所のピッツバーグセンター駅に集合し、ホストファミリーと最後の記念撮影をしていました。短い期間でしたが、別れが惜しまれる深い交流ができたようでした。鉄道BARTに乗ってサンフランシスコ空港に移動するまで、団員たちは滞在中のホストファミリーとの思い出を途切れることなく語り合っていました。



【7】 7日目 8月6日（火）

サンフランシスコ空港から韓国インチョン空港に向かう飛行機は、ほぼ予定通りの出発でしたが、団長、引率と添乗員が数日前から気にかけていたのは日本への台風の接近でした。天気予報では搭乗した飛行機が韓国インチョン空港に到着予定頃には台風は対馬海峡付近にあり、インチョン空港に着陸できないのではないかと心配していました。さらに、台風の進路次第ではインチョン空港から福岡空港へ向かう飛行機も欠航するのではないかと心配していました。ところが、そんな心配もなく台風を避けながら飛行して、インチョン空港には予定より少し遅れて着陸しました。また、幸運にもインチョン空港から福岡空港に向かう飛行機も予定通り出発しました。台風の進路を避けて遠回りして飛行したため予定より1時間遅れて福岡空港に到着しました。新下関駅に到着したのは予定より1時間遅れの午後11時でした。長時間の移動で疲れはあったものの、出迎えの保護者、学校の先生方に元気に研修を終えた報告ができました。

団員たちは、下関市の中学生の代表として下関市のプレゼンテーションを発表することで、現地の中高生とホストファミリーに下関の良さを紹介する使命を十分に果たしてくれました。今回のホームステイなどの経験を通して、米国の人々の心にふれることができ、日本人と同じようにアメリカの人々の優しさを感じたようです。団員たちはピッツバーグを離れるときに、「帰りたくない」「まだ、ここにいたい」とつぶやいていました。また、日本を離れて初めて、日本の良さ、素晴らしさにも気づくことができたのではないのでしょうか。これから、団員たちが広い視野をもち、世界に羽ばたく人材に成長してくれることを期待します。